

公益財団法人 日本文学振興会

平成26年度事業計画

当法人の本年度に企画する事業は、定款第3条の「文芸の向上顕揚を図る」を目的として、第4条に基づく下記五賞の選考と授賞を行う。

大宅壮一ノンフィクション賞 第45回（平成26年度） 平成26年4月中

故大宅壮一氏の言論活動を記念し、ノンフィクション界の新人育成を目的として、清新且つ創造的な作品を著した著者を選出し、賞金及び記念品を贈る。今回から新しく雑誌部門を新設し、書籍部門とともに二部門で選考を行う。

対象は書籍部門が、毎年1月1日より12月31日までに発行されたノンフィクション作品（ルポルタージュ、手記等、小説以外の作品）。雑誌部門は、平成25年1月1日から平成26年2月末日まで（来年度から、毎年3月1日から2月末日までとする）に、月刊誌、季刊誌、週刊誌に発表された署名記事（ウェブマガジンは除く）で、ルポルタージュ、ドキュメンタリー等ノンフィクションの記事が対象となる。日本文学振興会による予備選考を経て4月に選考委員会を開き、その結果は「文藝春秋」6月号に場を借りて発表される。正賞は100万円、副賞はJAL国際線往復航空券。選考委員は、書籍部門が、梯久美子、片山杜秀、佐藤優の各氏。雑誌部門が、奥野修司、後藤正治、エリック・タルマジの各氏。6月中に贈呈式及び披露を行なう。

松本清張賞 第21回（平成26年度） 平成26年4月中

人間性を透視し、社会の暗部を凝視して、名作を数多く生み出した故松本清張氏の業績を記念し、長編小説の分野での、優れた作品の執筆者を選出し、記念品及び賞金を贈る。

対象はジャンルを問わぬエンターテインメント小説。原稿枚数(400字換算)300枚から600枚まで。毎年11月末日締切。日本文学振興会による予備選考を経て、4月に選考委員会を開き、その結果は「オール讀物」6月号に場を借りて発表される。正賞は時計、副賞は500万円。選考委員は、石田衣良、北村薫、小池真理子、桜庭一樹、葉室麟の各氏。6月中に贈呈式及び披露を行う。

芥川龍之介賞 第151回 (平成26年度上半期) 平成26年7月中

第152回 (平成26年度下半期) 平成27年1月中

故芥川龍之介の文業を記念し、日本文学に新風を送る作品を著した有為の新人を選出し、記念品及び賞金を贈る。そして、直木三十五賞と共にその贈呈式及び披露を行う。

対象は雑誌に発表された純文学作品(原則として原稿枚数200枚以下の短編)。12月1日～5月31日を上半期、6月1日～11月30日を下半期とする。日本文学振興会による予備選考を経て、1月及び7月に選考委員会を開き、その結果は、「文藝春秋」9月号及び翌3月号に場を借りて発表される。正賞は時計、副賞は100万円。選考委員は、小川洋子、奥泉光、川上弘美、島田雅彦、高樹のぶ子、堀江敏幸、宮本輝、村上龍、山田詠美の各氏。

直木三十五賞 第151回 (平成26年度上半期) 平成26年7月中

第152回 (平成26年度下半期) 平成27年1月中

故直木三十五の文業を記念し、日本の大衆文芸に新生面をひらく有望な新人を選出し、記念品及び賞金を贈る。そして、芥川龍之介賞と共にその贈呈式及び披露を行う。

対象は12月1日～5月31日(上半期)及び6月1日～11月30日(下半期)に刊行された大衆文芸作品。日本文学振興会による予備選考を経て、1月及び7月

に選考委員会を開き、その結果は「オール讀物」9月号及び翌3月号に場を借りて発表される。正賞は時計、副賞は100万円。選考委員は、浅田次郎、伊集院静、北方謙三、桐野夏生、高村薫、林真理子、東野圭吾、宮城谷昌光、宮部みゆきの各氏。

菊池 寛 賞 第62回 (平成26年度)

平成26年10月中

故菊池寛の日本文化の各方面に遺した功績を記念し、同氏が生前関係の深かった、文学、映画・演劇、新聞、放送、出版（雑誌を含む）及び広く文化活動一般に於いて、清新且つ創造的業績をあげた人、或いは団体を選出し、記念品及び賞金を贈る。そして、その贈呈式及び披露を行う。

日本文学振興会による予備選考を経て、10月に選考顧問会を開き、その結果は「文藝春秋」12月号に場を借りて発表される。正賞は時計、副賞は100万円。選考顧問は東海林さだお、半藤一利、平岩弓枝、養老孟司の各氏。